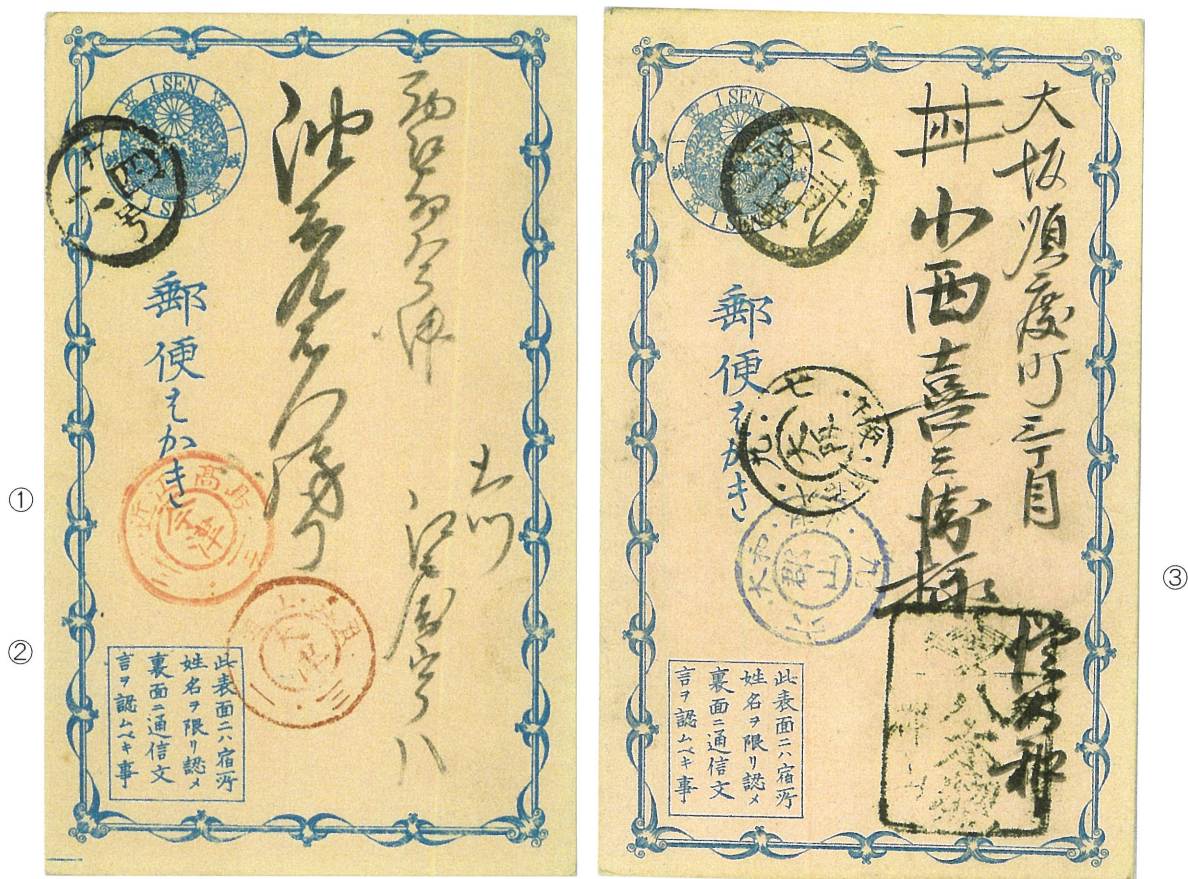




日本フィラテリックセンターのオークションが800回の節目を迎えられたことを祝し、その機会に巡り合わせたことを喜ばしく思います。

この偉業は、既にお二人とも故人となられた西岡辰二氏と龍雄氏の親子二代にわたる地道な運営努力の積み重ねが続けられてきた賜物であり、加えて近年、事業の継続に手を挙げられた現店主 金坂忠彦氏の勇断があったからこそ成し遂げられたものに違いありません。

日本フィラテリックセンターのオークション業務の変遷については『切手商売六十五年 西岡辰二の郵趣昭和史』（日本郵趣出版 1989）に詳しいのでご参照を。（同書には、消印のかかり度合いを示す⑧や⑩の表現方法を西岡辰二氏が発案されたことなども書かれています）



二重丸印の印色は基本的には黒色ですが、他の色を用いたケースも
 地方局を中心に数多く見受けられます。その大部分は記番印の証示印
 として用いられたK G印です。今回は賑やかにいくつかを紹介します。

① 朱色は全国さまざまな局で使われました。近江今津の例です。

② 近江大津の印は朱色より赤みの強い鶯色（とびいろ）です。

③ 大和郡山は紫の印色が使用されたことで知られています。

④ 常陸石岡局では独特の青緑色の印が使用されました。

⑤ 和泉大津局の印はただ黒色が薄くなっただけと言われそうですが、
 灰色（薄墨色）の色変わり印と認識しています。

（記：藤岡 靖朝〈日本郵楽会会員〉）